

3つの大型事業を見直すこととしました

安心・安全でより良い郡上偕楽園をめざし事業規模を見直します

郡上偕楽園は長良川沿いの水害の危険性がある場所に建てられているため、利用者の生命を守ることを第一に考え、大和第一北小学校跡地を候補地として移転計画を進めてきました。しかし、物価高騰などの影響により事業費が約28億円と大きく膨らむ可能性があることに加え、今後、介護の必要度が高まる85歳以上の人口が、郡上偕楽園を建設するにあたって策定した基本計画の予想よりも大きく減少することが明らかになったため、事業の内容を再検討することになりました。

また、施設を運営するために必要となる介護人材の確保が困難になることが予想され、職員の高齢化も相まって現在と同じ労働力を確保することが難しくなっていることや、市内では高齢者が安心して暮らせる入所系施設の受入数が増えていることなども、見直しを行う理由になります。このような状況から、偕楽園をどのくらいの規模にするかもう一度よく考え直す必要があると判断し、特別養護老人ホームの定員を29床に減らすことなど検討しています。減らした分については、病院や他の施設と協力して、みなさんに安心して過ごしていただけるようにしていきます。移転する場所は、大和第一北小学校の跡地の一部を予定していますが、イエローゾーン（土砂災害警戒区域）を避け、安全な場所に建てるようにします。これから、できる限り早く新しい郡上偕楽園を建てるために準備を進め、早ければ令和8年度から建設に入りたいと考えています。



建設予定地としている大和第一北小学校跡地

問 郡上偕楽園 88-2048

郡上クリーンセンターの更新方法を再検討します

郡上クリーンセンターは、市内から出るごみを燃やして処理する施設として、使用を始めてから18年が経過しました。ごみの焼却施設の一般的な使用年数は20年とされており、市では、平成9年に建設され27年が経過した北部クリーンセンターと機能を統合した上で、新しく建て替える計画を立てました。

しかし、物価高騰などの影響により、建設や管理運営に必要となる費用が大きく増加する見込みとなりました。今後も人口減少が想定される中で、膨大なお金を費やして郡上クリーンセンターを新築するのではなく、市民サービスはしっかり確保することを前提に、将来負担の削減を含めたあり方をもう一度考えることとしました。

現在、ひとつの案として、他の自治体と一緒にあってごみの処理を行う「広域化」の検討も行っています。広域化は、費用を抑えたり中継施設を建設することで、効率的にごみを処理できるというメリットがあります。いずれにしても、市民のみなさんにご不便をおかけすることがないように事業を進めていきますので、ご理解のほどよろしくお願いします。



現在の郡上クリーンセンター。広域化を含め、今後のあり方を再検討します。

問 郡上クリーンセンター 66-2366

大矢元工業団地の整備を一旦立ち止まり検討します

市では、美並町の大矢元地区に新しい工場を誘致する計画を進めてきました。この計画では、工場へのアクセス道路である市道を広くしたり、工場の用地を整えたりする工事が必要です。これらの工事には、物価高騰などの影響もあり、費用が大きく増加し約15億円となる見込みとなりました。また、最近の深刻な人手不足により、工場の雇用の確保について心配な面もあります。こうした人手不足は、近隣で工場を構える事業所との間で、働き手を取り合うなどの事態を招く恐れもあります。

このような状況をふまえ、新しい工場用地の整備は、心配されることが拭い去られるとともに、実際に工業団地に進出される企業が決まってからの着手として検討しています。また、この土地を工場以外の別の用途で使うことについて、どのような可能性があるかということも考えていきます。

市では、これからも市民のみなさんが生き生きと働ける環境をつくるため、新しい企業を誘致する取組みを進めていきますが、同時に、既にある事業者を応援するための取組みも続けていきます。



大矢元の工業団地整備予定地。一旦立ち止まり、考え方を整理します。

岐阜県域統合型 WebGIS (航空写真H24/12撮影)

問 商工観光部商工課 67-1808